

シンポジウム

いま、 アジアで

国家を越えた交流を深める東アジア



日時 2006年7月1日(土)

午後1時30分から5時まで

会場 新潟国際情報大学
新潟中央キャンパス・9階講堂

入場 入場無料 事前のお申込みは必要ありませんが、定員(200名)になり次第、締め切らせていただきます。

主催  **新潟国際情報大学**
情報文化学部

 **東洋大学**
アジア文化研究所
アジア地域研究センター

ごあいさつ



新潟国際情報大学長
武藤 輝一

新潟は中国、韓国、ロシアを対岸の隣人とし、東南アジアを親密なパートナーとして民間交流や経済交流を深めてきました。これらの地域は現在、政治経済的に大きな変動のなかにあり、新潟もその影響から自由ではありません。本シンポジウムは、そのようなアジアの現在を、新潟国際情報大学情報文化学部と東洋大学アジア文化研究所アジア地域研究センターの協力の下に、学生や市民の皆様に広くお伝えすることを目的しております。稀有の機会でもありますので、できるだけ多数の方々にご参加いただけることを心より願っております。

趣旨説明

東洋大学アジア文化研究所
アジア地域研究センター長
比嘉 佑典



90年代以降世界を席卷するグローバル化によって、アジアにおいても政治経済や文化に大きな変化が生じています。その結果、市民や民間企業が台頭してきて、経済交流や文化交流、あるいは観光といった様々な分野で国境を越えた交流が活発になっています。本シンポジウムでは、新潟国際情報大学と東洋大学の研究成果を広く社会に還元する目的から、「いま、アジアで」と題して、これら国境を越えた東アジアの新たな動きについて、4つの報告と全体討論及び質疑応答を通じて理解を深めたいと思います。

報告者紹介



東洋大学法学部教授・法学博士
佐藤 俊一 (さとう しゅんいち)

1943年 山形県生まれ
1973年 中央大学大学院法学研究科
博士課程単位取得満期退学
1978年 群馬大学助教授
1988年 中京大学教養部教授
1999年 東洋大学法学部教授
専攻：行政学・地方自治論

アジアに広がる地方分権化の波

—アジア型権威主義体制の崩壊—

1980年代以降、フィリピンのマルコス政権の瓦解を手始めに、韓国、台湾、タイ、インドネシアという国家主導型開発体制が崩壊し、民主化と分権化が進展している。それには、様々な要因があるが、最大の要因は政治的抑圧と中央集権体制の行き詰りにあるといえる。ただ、この民主化と分権化が定着するかが注目されるところである。



東洋大学法学部教授
後藤 武秀 (ごとう たけひで)

1954年 兵庫県生まれ
1973年 中央大学法学部卒業
中央大学大学院法学研究科博士後期課程を経て
1986年 敦賀女子短期大学専任講師
1991年 東洋大学法学部専任講師
1999年 東洋大学法学部教授
専攻：比較法制史、アジア法

日本・中国・台湾関係の二面性

—政治的対立と経済交流の図式—

中華人民共和国建国以来、中国と中華民国(台湾)とは、政治的に常に対立している。また、日中国交回復以来、良好であった日本と中国は、昨今、教科書問題や靖国問題で関係にひびが入ってきている。逆に国交のない台湾と日本との政治的関係は微妙な安定を維持している。その一方で、経済交流は、台湾も中国も日本ももはや国境がないといってよいほど密接である。政治対立と経済交流という一見相反する東アジア情勢について歴史的、文化的側面から考察する。



新潟国際情報大学情報文化学部教授
高橋 正樹 (たかはし まさき)

1956年 新潟県生まれ
1981年 中央大学法学部卒業
1990年 中央大学大学院法学研究科
博士後期課程単位取得満期退学
1996年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師
2005年 新潟国際情報大学情報文化学部教授
専攻：政治学・国際政治学・タイ研究

タイの新中間層と民主化運動

—反タクシン首相運動をめぐって—

2006年4月、タイで総選挙が実施されたが、与党「タイ愛国党」とその党首であるタクシン首相に反対する野党がそれをボイコットしたため、総選挙がやり直されることになった。この背景には、グローバル化によって拡大した都市中間層のタクシン退陣を求める民主化運動があった。報告ではその可能性と問題点を考えたい。



新潟国際情報大学情報文化学部助教授
社会学博士
吉澤 文寿 (よしざわ ふみとし)

1969年 群馬県生まれ
1992年 東京学芸大学教育学部卒業
1995年 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了
2004年 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了
2006年 新潟国際情報大学情報文化学部助教授
専攻：朝鮮現代史

日韓を結ぶ市民交流

—教科書問題と戦後補償問題に見る—

政治レベルにおける近年の日韓関係は靖国神社参拝問題、独島(竹島)問題でギクシャクしているといわれる。しかし、市民レベルで見ると継続的な交流があり、日韓間の諸問題をもとに考えようとする動きがある。本報告では日本の教科書問題及び戦後補償問題を事例として、日韓市民交流の現状と課題について考えていきたい。

プログラム

総合司会：長坂 格（新潟国際情報大学）

開会のあいさつ

1:30~1:35

新潟国際情報大学長 武藤 輝一

趣旨説明

1:35~1:50

東洋大学アジア文化研究所
アジア地域研究センター長 比嘉 佑典
いま、アジアで —観光が結ぶ東アジア—

第1部 報告

1:50~2:15

佐藤 俊一（東洋大学）
アジアに広がる地方分権化の波
—アジア型権威主義体制の崩壊—

2:15~2:40

高橋 正樹（新潟国際情報大学）
タイの新中間層と民主化運動
—反タクシン首相運動をめぐって—

2:40~3:05

後藤 武秀（東洋大学）
日本・中国・台湾関係の二面性
—政治的対立と経済交流の図式—

3:05~3:30

吉澤 文寿（新潟国際情報大学）
日韓を結ぶ市民交流
—教科書問題と戦後補償問題に見る—

休憩

3:30~3:45

第2部 全体討論

3:45~4:55

討論者 越智敏夫（新潟国際情報大学）
比嘉佑典・佐藤俊一・高橋正樹・
後藤武秀・吉澤文寿

閉会のあいさつ

4:55~5:00

東洋大学 学術フロンティア
プロジェクトマネージャー 後藤 武秀

討論者紹介



新潟国際情報大学情報文化学部教授

越智 敏夫 (おちとしお)

- 1961年 愛媛県生まれ
 - 1986年 立教大学法学部卒業
 - 1992年 慶応義塾大学大学院法学研究科
博士課程単位取得満期退学
 - 1992年 立教大学法学部助手
 - 1996年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師
 - 2006年 新潟国際情報大学情報文化学部教授
- 専攻：政治学・アメリカ研究

会場案内



会場：新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス・9階講堂
新潟市上大川前通7番地1169 TEL:025-227-7111

新潟国際情報大学情報文化学部 (NUIS)

〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1
TEL：025-239-3111(代) URL：http://www.nuis.ac.jp

東洋大学アジア文化研究所アジア地域研究センター (ACRI)

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL：03-3945-7490 URL：http://acri.toyo.ac.jp/answer/

お問い合わせ

TEL 025-239-3111 (代)

〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1 新潟国際情報大学総務課